

(3) 現代社会における「教養」「教養教育」の構造・構成要素

21世紀の社会はグローバル化する情報知識社会（知識基盤社会）として国際競争の激化に対応できる人材の育成が急務の課題となっている。日々高度化し多様化する知識基盤社会にあって「知の創造」を支える知性・技能・教養の形成が求められるとともに、豊かな市民社会を担う諸能力の伸長に責任を自覚した教育の在り方が問われている。現在の高等教育にとって看過することのできない教育の課題のひとつは、グローバルとローカルの両方の視点を常に意識化した上で行動できるようになる学びに対する人的・物的諸条件に配慮することである。こうした課題に前向きに取り組もうとする高等教育においては、教授中心から学習中心へ、学生本位の教育活動が展開しやすい教育課程の編成方針が重要となり、Learning Outcome（学習成果）の占める位置がますます大きくなっていく。グローバル化する知識基盤社会を主体的に担う人材の育成にとって、高等教育の果たすべき役割の策定は、大綱化以後の教養教育軽視をもたらした学士課程教育の施策を反省的に見直しつつ進められねばならない。

すでに大学審議会答申「高等教育の一層の改善について」（1997年）において、大綱化に伴う大学教育の問題・課題が反省的に指摘され、高等教育の大衆化と多様化を踏まえつつ、「学問の総合化・学際化」「専攻領域の広がり」「地球環境・生命倫理の問題」「研究者の社会的責任」「人間や社会とのかかわりに関する高度の識見」といった諸課題が取り上げられた。また社会・経済の大きな変化、産業構造の変化に対応するための幅広い視野および総合的判断力と豊かな想像性をもつ人材の養成が唱えられ、グローバル化・情報化の進展に対応できる高度な知識・技能を身につけることが求められた。その際カリキュラム改革の観点から重視された内容としては「学生の視点に立った改革」「教養教育と専門教育との有機的連携の確立」が取り上げられた。そうした一連の答申内容にはつねに教養教育の重要性に言及し、「教養教育は高等教育全体の大きな柱」という位置づけを堅持しつつ、「教養教育によって学生どのような知識あるいは能力を身につけさせるか」が課題として指摘されている。さらに学問分野の細分化・専門化の度合いが強まる傾向に対しても学際的アプローチの必要性に鑑み、「学部・学科の壁を越えた共通授業科目も開設」「狭い専門に偏らない幅広い知識を身につける」ことの必要性が唱えられた。しかし人文・社会科学分野を中心に見られる大教室における一方通行の講義に象徴されるように、また研究中心型大学と教育中心型大学との違いによる教養教育への取組みに見られる温度差は、各大学の努力にもかかわらず依然として解消できていないと言わざるをえないであろう。

こうした認識のもとに「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—」（大学審議会答申、1998年）では、「人類にとって真に豊かな未来の創造、科学と人類や社会さらにそれらを取り巻く自然との調和ある発展等を図るため、多様で新しい価値観や文明観の提示等が強く求められるようになる」との観点から「知」の再構築が求められる時代における高等教育のあり方について提言がなされる。教養教育に関しては相変わらずその軽視が指摘され、ここではじめて学部教育が学士課程教育と呼称されて高等教育の多様化と個性化の推進をにらんで、「自ら主体的に学び、考え、柔軟かつ総合的に判断できる能力等の育成が重要」との観点から「幅広く深い教養、高い倫理観、実践的な語学能力・情報活用能力の育成」といった課題が提起された。そうした問題提起の背景には変化が激しく不透明な時代に求められる「主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題

に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力」(課題探求能力)の育成が不可避であるとの理解がある。ここで言われた「力」については具体的に「自主性と自己責任意識、国際化・情報化社会で活躍できる外国語能力・情報処理能力や深い異文化理解、さらには高い倫理観、自己を理性的に制御する力、他人を思いやる心や社会貢献の精神、豊かな人間性などの能力・態度」のことを指している。次いでこうした答申の方向性が「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」(大学審議会答申、2000年)へと継承されて、答申の「1 グローバル化時代を担う人材の質の向上に向けた教育の充実」において、(1) グローバル化時代に求められる教養として以下の諸点が挙げられている。

- 高い倫理性と責任感を持って判断し行動できる能力の育成
- 自らの文化と世界の多様な文化に対する理解の促進
- 外国語によるコミュニケーション能力の育成
- 情報リテラシーの向上
- 科学リテラシーの向上

また答申の「2 科学技術の革新と社会、経済の変化に対応した高度で多様な教育研究の展開」においては、(1) 国際的な魅力と競争力を備えた教育研究の推進のために、学部段階における幅広い教養教育を基礎とした専門大学院の充実による高度専門職業人の養成に触れ、職業資格との関連での教養教育の位置づけがなされている。激しく変化する社会・企業界のニーズを取り込んだ教養教育のあり方が問われたと言える。

そうした高等教育の性格・制度等がめまぐるしく変化する諸観点を踏まえて、教養教育に関する共通理解の喪失状況に対処するために、中教審も「新しい時代における教養教育の在り方について」(2002年答申)を提言した。そこでは1. 教養の必要性、2. 新しい時代に求められる教養の意味と内容、3. 教養教育の在り方と方法といった問題整理を行い、大学における教養教育の課題について「幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成」を目指してさまざまな方策を提言している。例えば、「新たに構築される教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるもの」が重視され、そのためには「理系・文系、人文科学、社会科学、自然科学といった従来の縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や、専門教育への単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察」といった具体的な指摘がなされている。これらの内容が2005年の中教審答申「我が国の高等教育の未来像」に盛り込まれた、大学の機能別分化の中に位置づけられた総合的教養教育としての内容と重なることは言うまでもない。この答申は21世紀が「知識基盤社会」の時代であることを基本理解にしながら、「21世紀型市民」の育成を目指した教養教育の見直しを求めている。

以上のような各種答申を踏まえて、2008年12月に出された中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」の中で提言された「学士力」という考え方に対して、その内実を教養教育の観点から捉えなおす作業が不可欠となったことに鑑み、学士に求められる「力」とはどのような性質と内容を意味するのかについて一定の指針となる考え方を示しておきたい。

グローバル化と高度知識産業化の進行する現代社会において「学士力」の概念に盛り込まれた「力」には、一方では専門分野の知識と技能が、他方では価値が多様化する社会に適応

する素養が含まれるとみなすことが一般的理解であろう。しかし、学士の「力」とは、大学全入時代の高等教育大衆化による学生の多様化および学問分野の細分化・特殊化が進むに従っての学位の多様化など、さまざまな意味での多様化に対応せざるをえない「力」をも考慮しなければならない。そのことから「学士力」を一様に確定することには無理と危険が伴う。このことは教養教育を考える際にも言えることであり、単純に専門教育のための基礎教育という理解の仕方では納得すべきではないであろう。グローバル化の拡大進展、大学院進学者の増加、社会的構造の多様化と変化、人間関係の希薄化、政治・経済の混迷化、情報科学の高度化、人間の尊厳の毀損現象等といった現実を直視すれば、国際的・人類的視野での教養、学士課程と大学院とを関連づける専門教養、責任意識に裏打ちされた市民・企業人育成のための教養、生きがいにつながる倫理的教養、真の豊かさに結びつく価値観と教養、情報に関する判断力と活用力の教養、他者関係における教養の育成、等といった多様な教養教育の在り方が出てくる。現代の高等教育が直面しているそうした諸事情と諸課題を踏まえて、ここでは教養教育の構造・構成要素を以下のような観点に立って示すことにする。

まず、「学士力」と言われる時の「力」は教養教育との関係で見れば、特定の学問の専門分野にのみ個別的に適合する内容のことではなく、分野を超えた総合的・超域的次元で理解すべきものである。さらに、すべての学生が共通して身につけるべき「基本的な素養」でもあることに鑑みれば、人間として、市民として、職業人として重要な意味をもつ倫理観・価値観・世界観の獲得および実践へとつながる根本智とも言えるものである。そのような多様な意味をもつ「力」を表すために、教養智・実践智・科学知・技術知をすべて含む統合概念としてコンピテンス(competence)と呼ぶことにし、その具体的内容を網羅すれば次のような類型化が考えられる。

「教養」および「教養教育」の構造・構成要素としてのコンピテンス（教養智・実践智・科学・技術知）

①基礎力（発見力）としてのコンピテンス

自ら学び考え自省する智

論理的・批判的思考力

状況に適応し問題・課題を解決する知

②実践力（発信力）としてのコンピテンス

知識・情報・技術・メディアを活用するリテラシー・スキル

コミュニケーション能力

参加・関与・協働する知

③汎用力（構想力）としてのコンピテンス

生成・創造する知

多様な他者・異文化を理解し許容する知

越境・融合・統合する智

④総合力（規範力）としてのコンピテンス

人文・社会科学的リテラシーと科学的リテラシーの統合知
倫理観・価値観・歴史観に関する知
豊かな人類世界の建設に関する知